

小濱 隆文 (恵寿総合病院 産婦人科)

免疫能賦活による抗腫瘍・抗癌作用を有するとされるアガリクス茸エキス (WITH LIFE アガリクス SE ; Ag) を卵巣癌 (Stage IIIc ; 2例) の治療時に併用投与し、経過観察した。

症例 1) 70 歳の女性。病理診断 : serous papillary adenocarcinoma (Stage IIIc)、IDDM (insulin にてコントロール中) 合併。腹腔内投与 + CP 療法 (cyclophosphamide 700mg + carboplatin 450mg) 1クール施行するも、腹水は再び増大した。CP 療法 2クール目開始時より Ag 3袋 (300mg × 3/日) 併用投与を開始、腹水の消失、腫瘍の著しい縮小が認められた。以後 CP 療法 3クール施行、CA-125の著しく減少、CT scan 画像上腫瘍は消失した。退院後も Ag 投与続け、術後一年半経過した現在再発兆候は認められていない。また、IDDM の改善も認められた。

症例 2) 65歳の女性。術後診断 ; mature cystic teratoma with malignant transformation (stage IIIc)。Ag 3袋 (300mg × 3/日) 内服開始させた後、VAC 療法施行、および Taxol 240mg + carboplatin 450mg × 3クール施行。CD4/CD8 比は化学療法中にもかかわらず、高値を維持していた。以後、退院後 8 ヶ月経った現在も再発兆候なく、外来通院している。症例 1 は、化学療法時の Ag 併用後の腫瘍の縮小・消失が認められた症例、症例 2 は一般的に予後が 3~6 ヶ月とされる症例であり、いずれも Ag 併用による化学療法効果の促進が示唆される症例と思われる。